

広島市のスポーツ振興における主要課題等について

小野副部長

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容】

体育指導委員の活動の活性化

現在、それぞれの所属学区の学区体育協会や広島市スポーツ協会の地域スポーツ振興担当コーディネーターと連携しながら活動しているが、新しいスポーツ振興計画の中で、もっと具体的な役割分担を示し、体育指導委員の活動の活性化を図る。

〔理由等〕

広島市体育指導委員は広島市体育指導員規則により職務を定められて委嘱を受けているが、時代の変化とともに体育指導委員に求められている役割も変化していると思う。

広島市の体育指導委員は、7月1日現在、390人が各学区において、地域のスポーツ活動の振興に尽力しているが、市域全体から捉えると認知度が低く、また、知られていても、その活用する方法（システム）が明確化されていないため、十分な普及活動までにはいたっていない。

■ 競技力の向上

【取組内容】

体育指導委員と各種スポーツ団体との連携による専門指導者の派遣等

〔理由等〕

体育指導委員は、「住民に対し、スポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導・助言を行う」ことにより市のスポーツ振興を図っていくこととなっているため、直接、競技力の向上に携わっていくことはない。

ただし、競技力向上のための底辺拡大（競技者の増）という観点から捉えた場合には、各種のスポーツ団体との関連についての可能性を見出すこともできるかもしれない。

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【参考意見】

トップス広島やトップスポーツチームとの交流するイベントのコーディネートする機会は、ほとんどない。

ただ、学区（地元）での特色を生かし、各チームの応援機運を盛り上げていくような働きかけは、できるかもしれない。

■ 学校における体育の充実

【参考意見】

学校施設は使用するものの、学校関係者（特に教員）への認知度が低く、学校から積極的に連携して何かしてほしいとの依頼は、全体的に少ないと思う。

阪田委員

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容】

区スポーツセンター単位のスポーツギネスづくり（挑戦できるもの）

広島からの発信につながるように企画し、インターネットで紹介し広げる。

■ 競技力の向上

【取組内容1】

アマチュア規定違反とならない部分で、プロ経験者の派遣を増やす。

【取組内容2】

競技コマーシャルを拡大する。

〔理由等〕

まず関心を引く必要がある。

■ 学校における体育の充実

【取組内容】

スポーツボランティアの導入

〔理由等〕

現在、広島市教育委員会では大学生との連携により体育指導を実施しているが、一般からのボランティアを含め、もっと充実した連携により指導者の確保に努める必要がある。学校の教員だけでは限界がある。

■ **その他**

【取組内容】

小学校への「AED」の設置

崎田委員

■ **その他**

【取組内容1】

スポーツ博物館の創設もしくはスポーツ展示企画の開催

広島にゆかりのあるスポーツ選手、チーム、競技、大会、施設、会社、道具、遊びなどをテーマにしたスポーツ博物館の創設あるいはスポーツ展示企画を開催する。

広島県在住者はもちろんのこと、国内外の観光客、調べ物をする近隣諸都市の生徒や学生、広島に遠征に来たスポーツ選手、研究者など、色々な興味関心を抱く人々を満足させるような資料と展示、企画を備えた施設・企画展とする。

それに加えて、広島市内の諸学校に対する貢献（「総合的な学習の時間」への協力や夏休みの自由課題の提言）、歴史的に貴重なスポーツ関係資料の収集と保管といった教育・研究施設・企画展であることが望まれる。

〔理由等〕

- (1) 広島はスポーツにおいて伝統がある。この伝統を継承し次世代に引き継ぐ必要がある。
- (2) スポーツを「する（行う）、観る、支える」という捉え方に加えて、「スポーツを学ぶ」という捉え方を加える必要がある。そのためには、スポーツの文化的・社会的役割を「学ぶ場」の設置が必要である。また、「スポーツを学ぶ」という捉え方は、従来の「スポーツに理屈はいらない。スポーツは身体を動かせばいい。」という矮小化されたスポーツのイメージを改める取組となる。
- (3) 1986年に「広島スポーツ100年展」（主催：広島市）が開催されており、ここで構想された企画や収集された史料が活用されていない。

【取組内容2】

環境保護の観点に立ったスポーツ競技大会の徹底

〔理由等〕

毎年、広島市では数多くのスポーツ競技大会が開催されている。公式のスポーツ競技大会から仲間同士で行うスポーツ競技大会まで多種多様である。スポーツ競技大会に参加するスポーツ選手は、ただ単にスポーツをすることだけに全力を傾ければいいのだろうか。近年、環境に関する問題が大きく取り上げられてきており、スポーツ選手は、この環境問題に無関心であってはならないと考える。

そのため、スポーツ競技大会そのものが環境保護の観点に立って運営されなければならない。例えば、競技場までは公共交通機関を可能な限り利用すること、スポーツ競技大会で使用する印刷物の量を最小限に減らすこと、スポーツ用具・設備が環境保護の視点からみて適切かということ、競技場の光熱水の節約に気を配った試合の組み合わせがなされているかなどである。具体的な内容は行政主導で作成し、各競技団体やスポーツ施設利用者が自主的に取り組むことが必要である。

會根委員

■ 基本的コンセプト：「スポーツでつなぐ」

【考慮すべき意識調査結果】

- (1) スポーツをする目的として「楽しみ・気晴らし」、「家族とのふれあい」といった精神的な面を求めている人が多い（市民、児童生徒ともに）。
⇒レク活動に触れる、経験する（市民とレク活動をつなぐ）
- (2) スポーツ施設への期待や困っていることなどとして、「指導をしてくれる人」が多くあがっている（市民、児童生徒ともに）。
⇒“みんなが指導者”を目指す（人と指導者をつなぐ）
- (3) 「誰もが参加しやすいスポーツ環境の整備」、「日常的にスポーツを楽しめる環境づくり」を求めている人が多い（市民）。
⇒“どこでも運動・スポーツ”を目指す（市民とスポーツの「場」をつなぐ）
- (4) プロスポーツの振興に関心が高い（市民、児童生徒ともに）。
⇒トップスポーツに触れる（プロスポーツと市民・児童生徒をつなぐ）
- (5) 大会の出場経験として「市・区大会」が多い（児童生徒）。
⇒県大会出場経験者を増やす（色々なスポーツの場と児童生徒を結ぶ）

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容1】

市民とスポーツ指導者をつなぐ：一人一レク指導

【取組内容2】

市民とスポーツの「場」をつなぐ：スポーツで地域を結ぶ

【取組内容3】

市民とレク活動をつなぐ：一人一レク

■ 競技力の向上

【取組内容1】

児童生徒とスポーツ指導者をつなぐ：競技分野を超えた強化、競技分野を超えた合宿、競技分野を超えた指導

【取組内容2】

児童生徒とスポーツの「場」をつなぐ：一流のパフォーマンスに触れる機会の創出、一流（プロ選手を含む）の練習を見る「場」の創出

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【取組内容1】

市民とスポーツ指導者をつなぐ：一人一スポーツ指導者（主治医的にアドバイスをもらえる指導者の確保）

【取組内容2】

市民とスポーツの「場」をつなぐ：トップスポーツの合宿誘致

【取組内容3】

市民とスポーツをつなぐ：スポーツ・プロデューサーの新設（※コーディネーターではない。）

■ 学校における体育の充実

【取組内容1】

児童生徒とスポーツ指導者をつなぐ：外部指導者の充実、体育教師の積極的採用

【取組内容2】

児童生徒とスポーツの「場」をつなぐ：校庭の芝生化の推進、ポイント制スポーツ観戦

【取組内容3】

児童生徒と体育をつなぐ

■ その他

【取組内容】

田川委員

■ **地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興**

【取組内容1】

スポーツ・レクリエーション施設・設備の再整備

〔理由等〕

現在、各区スポーツセンターを中心に年間延べ300万人以上の市民がスポーツ活動に親しんでいるが、各施設とも老朽化が進むなかで、近年では高齢者や女性の利用が年々増加しており、新たな活動形態を取り入れた運動メニューに対応可能な施設（例：ニュースポーツ人気、泳ぐプールから歩くプール）が強く求められており、時代に即したスポーツ施設・設備の再整備を早期に行う必要がある。

【取組内容2】

指導・相談体制の充実

〔理由等〕

近年、「メタボリックシンドローム」、「転倒防止」、「介護予防」といった健康・体力づくりやストレス解消等の精神的リフレッシュ効果などスポーツニーズが多様化するなかで、気軽に相談でき、しかも専門的なアドバイスを受けられるような指導・相談体制を望む声が多い。

そのため、現在の地域スポーツ振興担当コーディネーターをはじめ、学区体育団体連合会、体育指導委員など既存の指導体制に加え、シニア層を中心とした指導者の発掘、育成を図るなど新たなスポーツ活動支援体制を構築する必要がある。

【取組内容3】

地域スポーツ・レクリエーション活動の拠点施設としてのスポーツセンターの役割の明確化と充実

〔理由等〕

スポーツ・レクリエーションに対する市民ニーズの多様化をはじめ、福祉・医療行政などの行政ニーズや地域コミュニケーションの場としての公益性など、より多様かつ広範囲なスポーツ活動の拠点施設としての各区スポーツセンターが果たすべき役割について再度見直すことが重要である。

特に、近年ではプロスポーツやトップレベルのスポーツから身近な運動までの様々な情報の収集と発信が強く求められており、そうしたことができる人材の確保や、推進体制を構築する必要がある。

【取組内容4】

広島市スポーツ協会との連携強化

〔理由等〕

広島市スポーツ協会は、本市のスポーツ施設を管理・運営する指定管理者として地域に根ざしたスポーツ振興に取り組むとともに、平成20年度からは本市スポーツ振興計画が策定されるまでの間、「市民の元気」「まちの賑わい」の創出に向けて、アクティブな諸事業を展開しており、既に多くのノウハウと実績を積んでいる。

したがって、地域スポーツの振興には、その拠点となる施設とスタッフ、さらにスポーツ活動ノウハウが必要であり、広島市スポーツ協会との連携は特に重要である。

■ **競技力の向上**

【取組内容1】

競技力向上に向けた新たな育成・強化プログラムの作成

〔理由等〕

現在の本市における競技力向上施策は、広島市スポーツ協会からの各スポーツ団体への補助を中心とした強化事業と各企業スポーツ支援及び各学校におけるクラブ活動補助が中心となっているが、その効果については十分ではないとの声も多い。

こうした現状を踏まえ、医科学からのアプローチや施設整備のあり方などを含めて専門的立場か

ら分析し、少年期から成年期までの強化プログラムを策定するためのプロジェクトを立ち上げるとともに、PDCAサイクルのもと、より効果の上がる施策の展開を目指す必要がある。

【取組内容2】

優秀な指導者の養成・確保

〔理由等〕

競技力向上にとって最も重要な要素は優秀な指導者の存在である。しかしながら、現実には指導者の個人的な努力に委ねる部分が多く、しかも人的支援や経済的支援など指導環境の支援策は皆無である。これは、本市のみならず日本全体の課題でもある。その大きな原因は日本のスポーツ選手育成が学校のクラブ活動あるいはその延長線上のスポーツ少年団の活動に大きく依存している点にあり、なかなか脱却できないのが現状である。

こうした現状から、広島市立沼田高等学校体育コースや広島県立皆実高等学校体育学科など体育・スポーツ専門教育のさらなる充実を図るなど、優秀な指導者を養成する方策は勿論のこと、地元広島で指導活動ができるよう環境条件の整備について経済界等とも連携を図るとともに、指導者同士のチームワークがとれる組織体制づくりが急がれる。

【取組内容3】

広島市スポーツ協会との連携

〔理由等〕

広島市スポーツ協会は、従前より各競技団体と連携し競技力向上に向けた取組を行ってきた。特に今年度からは本市の競技力向上に向け、

- ① ジュニア選手の育成・強化
- ② 優秀な指導者の養成
- ③ スポーツ医科学の活用

を柱とした「夢・感動、スポーツプラン」を策定し事業展開しているところであり、こうしたノウハウを蓄積している広島市スポーツ協会との連携を視野に施策を策定する必要がある。

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【取組内容1】

スポーツボランティア、サポーターの体制づくり

〔理由等〕

まちの賑わいや活力を創出するためにはボランティア活動やサポーターなど市民レベルの活動が重要な役割を果たすことから、さまざまな活動支援や情報提供、組織づくりの支援など自主活動への支援策を講じることが重要である。

また、プロスポーツ選手やトップスポーツ選手と市民とのふれあい・交流などを通じて夢や感動を共有することのできる場づくりをはじめ、スポーツイベントなどを通じてスポーツに意欲的に親しむ元気な市民の育成に向けた施策に、民間活力を活用しながら取り組む必要がある。

【取組内容2】

広島市スポーツ協会との連携強化

〔理由等〕

広島市スポーツ協会では、平成20年度から3ヵ年計画で「まちの賑わいスポーツプラン」を策定し実行している。特に「する」「みる」「ささえる」という視点から

- ① アクティブなシニアの輪を創ること
- ② アクティブなサポーターの輪をひろげること
- ③ アクティブな地域の輪をつなげること

を目指している。

こうした実績と成果をもとに課題を整理し、より積極的な活力ある市民スポーツ活動が繰り広げられるよう広島市スポーツ協会との連携による支援施策を推進することが重要である。

【参考意見】

「まちの活力」の概念の明確化

「まちの活力」と表現する場合の構成要素を明らかにしておく必要がある。スポーツに関連する

経済効果や集客性などを指すのか、市民のモチベーションや活気を指すのか一定の整理が必要である。

鍋島委員

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容】

広島型の総合型地域スポーツクラブとして、福祉施設等を地域スポーツクラブの受け皿にし（地域スポーツ施設の概念に関する体育館、学校、公民館、広場という考え方を超え）、高齢者をはじめ地域住民の健康・体力づくり、仲間づくり、生きがいをサポートする。

■ 競技力の向上

【取組内容】

地域ごとの特長を活かした総合型地域スポーツクラブを推進し、新しいスポーツ王国広島にふさわしいジュニア層まで視野に入れ、将来世界で活躍するトップレベルの競技者の育成を目指すスポーツ英才教育の場をつくる。

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【取組内容 1】

いつでも、どこでも、だれでもが参加できる生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツからフィジカル・レクリエーションまでのバランスの良い展開で、健康寿命の延伸と社会保障費の削減を目指す。（トップスポーツ－競技スポーツ－フィジカル・レクリエーション）

【取組内容 2】

広島のシンボルイベントであるひろしま国際平和マラソンについて、発信地平和公園と100メートル道路を利用し、世界的イベントとして全市民一丸で取り組む。

【取組内容 3】

スポーツ界でのコミュニティビジネスを推進する。

■ 学校における体育の充実

【取組内容】

生涯スポーツとは、一人一人の学習者が人生のあらゆる場面で自己実現を図る自主的・自発的なスポーツ学習であることを学校教育で徹底する。

〔理由等〕

スポーツ活動を通し、人生の健やかさ、人々との出会い、自然との接触等が保障され、学習によりスポーツの文化的性格を理解し、スポーツと人生の生き方、関わり方を伝えることができる。

■ その他

【取組内容】

平和の原点は笑顔であり、広島のシンボルである笑顔あふれる街づくりにスポーツの喜びや歓声が欠かせないことを広島から発信する。

〔理由等〕

市民の生活の中に平和とスポーツ文化による幸せづくりが定着することが基本である。

西野委員

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容 1】

障害者と健常者の交流と相互理解を目的としたスポーツ活動の実施と普及

【取組内容 2】

障害者スポーツの普及と体験の実施

【取組内容 3】

障害者や高齢者に適したレクリエーションスポーツの研究、体験会の実施

■ 競技力の向上

【取組内容】

障害者スポーツ同好会や選手の地域での練習や各地域での普及

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【取組内容1】

障害者スポーツに関する指導者及びボランティア又はスポーツリーダーの養成

【取組内容2】

広島市内の会場で開催される障害者スポーツ大会の情報提供と振興を図る（観戦案内、観戦招待、宣伝）。

■ 学校における体育の充実

【取組内容】

児童生徒による、障害のある人とない人が一緒にできるスポーツ・レクリエーションの工夫と創作

■ その他

【取組内容】

市民に広く「広島市心身障害者福祉センター」を認知してもらうための取組

萩原委員

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容】

広島市学区体育団体連合会（学区体育協会）の活性化

新しいスポーツ振興計画の中で具体的な役割分担を示し、組織の活性化を図る。

〔理由等〕

地域におけるスポーツの振興のためには、学区体育協会の活性化が不可欠であると認識しており、そのために市体連の内部でも協議を重ねているところである。

現在、体育指導委員や財団法人広島市スポーツ協会の地域スポーツ振興担当コーディネーターと連携してスポーツを通じた地域の活性化に努めているが、具体的な役割分担が明確にされることで、効率的な事業展開が図れるのではないかと考えている。

【参考意見】

- 1 広島市のクロスセクション事業のように、今後は、スポーツ振興に関係する団体が連携・協働し、効率よく事業を展開する必要があると考えている。本連合会の役割も含め、新しいスポーツ振興計画に出てくる各団体の役割を明確に示すとともに連携の必要性について明記することにより、関係団体の活性化とともに効率の良い事業が展開できるのではないかと考えている。
- 2 総合型地域スポーツクラブの位置づけの整理
 - ・学区体育協会が総合型地域スポーツクラブに移行していくのか
 - ・学区体育協会の内部に総合型地域スポーツクラブの役割を担う部を作るのか
 - ・別の組織として総合型地域スポーツクラブを立ち上げるのか。また、それを誰が作るのか。

■ 競技力の向上

【参考意見】

学区体育協会が直接携わっていくことはないと思われるが、底辺拡大という観点から何らかの取り組みをすることについて検討できるかもしれない。

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【参考意見】

トップスポーツチームの応援機運の醸成を図る事業展開は、広島市ひと・まちネットワークと連携して独自に展開しているが、広島市スポーツ協会の地域スポーツ振興担当コーディネーターと連携して、より地域と密着した取り組みの拡充は図れると考えている。

■ 学校における体育の充実

【参考意見】

136の小学校区にある学区体育協会としては、学校におけるスポーツ活動のバックアップや連携した取り組みは検討できると考えている。

※ これに関連する課題

学校ができること、本連合会ができることを協議しなければならない。これまでの状況を考え

るとお互いの活動主旨を理解する必要があるように思う。

本谷委員

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容】

地域スポーツ団体への活動支援や子どもが積極的にスポーツに親しむことができる環境づくり

■ 競技力の向上

【取組内容】

指導者の資質を高めるための取組

〔理由等〕

競技力を高めるとともに、不祥事を防止するため。

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【取組内容】

プロスポーツ、企業スポーツの振興

〔理由等〕

スポーツイベントの開催では、競技志向で初心者が参加しにくいようなものだけでなく、誰でも気軽に参加できるような実施方法・種目の見直しが必要である。

■ 学校における体育の充実

【取組内容1】

学校施設の計画的な整備・充実を進める。

【取組内容2】

教職員による研究活動や教職員に対する研修を推進する。

新出オブザーバー

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容1】

区スポーツセンター等の市のスポーツ施設と設備の内容・使用要綱等の周知徹底

【取組内容2】

スポーツ施設への指導者（各競技別の現役・OB選手及び指導者（監督、コーチ、その他スタッフ）の派遣

要望を確認した後、年間・半期プログラムを作成。トップス広島と競技団体が協力。

⇒競技力向上にも貢献。

■ 競技力の向上

【取組内容1】

学校クラブ活動指導者（小・中・高等学校）や地域スポーツクラブ指導者（年代別）の育成

〔理由等〕

指導レベルの向上を図るとともに、中・高等学校の有力選手の県外流出を防止する必要がある。

【取組内容2】

広島県との連携による競技別強化指定校制度の導入

（例）トップス広島各競技⇔中・高等学校強化指定校＝人・物・金の優先投資＝指導者交流・技術向上・メンタル強化

〔理由等〕

近年、広島サッカーにおいては、旧来の地域ジュニアスクールとサンフレッチェスクールの連動、また高等学校では、サンフレッチェユースを筆頭に皆実、観音、瀬戸内等の台頭により県外流出は激減している。

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【参考意見】

競技力向上が戦績につながり、強いチーム・個人が育成できれば、活力は生まれる。

■ 学校における体育の充実

【取組内容】

幼稚園・小学校校庭の芝生化の推進（鳥取方式、大規模事業ではなく、生徒、父兄の手植え）

■ その他

【参考意見】

高齢者の病氣予防体育（スポーツ）の体系的な取組・強化策が必要ではないか。

中野オブザーバー

■ 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【取組内容】

体育指導委員の活動範囲を広げる。

資格や指導・運営のアイデアなどを実際に持たれている人が多い。その人たちの持っているものを生かす場所を増やせるような組織の変容を促進する。

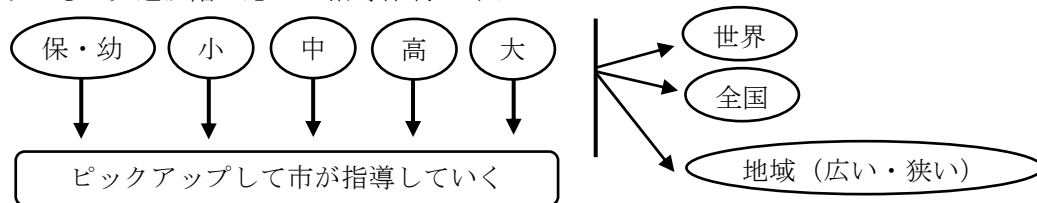
〔理由等〕

実際に、色々な資格や研修をされているが、そのことが継続して生かされる場面が少ない。⇒やりたいことがあっても、なかなか前に進めない。

■ 競技力の向上

【取組内容】

子どもの発達段階に応じた指導体制づくり



専門チームを作る。具体的な大会を目標に参加率を示す。

〔理由等〕

素質のある選手が出てきてから、初めて協会が独自に動くことが多い。たくさん子どもから、だんだんと絞っていくシステムの構築が必要である。

■ まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【取組内容】

プロ・アマスポーツを「まち」でサポートしていく。

広島東洋カープ、サンフレッチェ広島のサポート体制を参考に他にも広げる。

〔理由等〕

スポーツをすること・観ること・応援することが「かっこいい」と思われるような「まちづくり」をする。⇒人としての成長を伴う文化としてのスポーツ

■ 学校における体育の充実

【取組内容 1】

中学校において、生涯スポーツの基礎を培うことを重点に置く中で、スポーツに親しみ、スポーツが好きになる生徒を増やしていく、このことから「生きる力」の育成に繋げる。

〔理由等〕

ここ最近の学校教育の流れは、学力重視・安全対策などに重点が置かれ、体育・スポーツ振興の停滞が余儀なくされている。その中で、学校では体力低下に対して、体力向上を目指す取組を実践しているのが現状である。

【取組内容 2】

部活動の充実

教師の高齢化、多忙、指導不足（未経験）、転勤などにより、技術指導に専門の教師を配置できない状況から、外部（地域）指導者の支援制度を充実する。ただし、人物については、教育現場に入ることになるので、技術指導だけでは選出しない（トラブルが多いため）。

【取組内容 3】

学校現場でのニュースポーツ体験

〔理由等〕

中学生は、自分で利用料を払い、スポーツセンターや陸上競技場等に行って個人利用をしている。

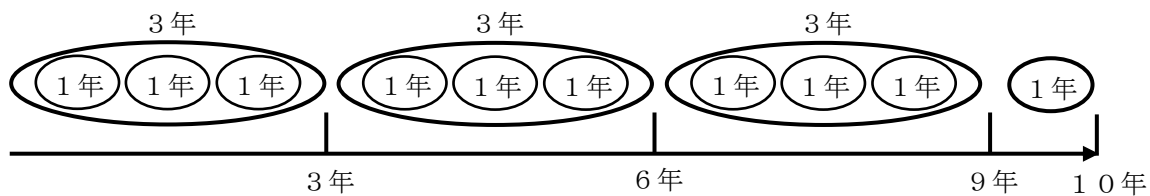
(バドミントン、卓球、水泳、陸上等)

習い事も多種である。(野球、サッカー、新体操、ダンス、乗馬、エアロビックなど)

■ その他

【取組内容】

計画を分割し、近い目標と遠い目標をたて、評価しながら計画を進める。



【参考意見】

- (1) 「地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興」と「学校における体育の充実」の内容は、セットでも考えられる。
- (2) 総合型地域スポーツクラブ（山間部と沿岸部での違い）